

AWSドンジャラ Ver1.1

JAWS-UG

ルール(作り方)

● CDP



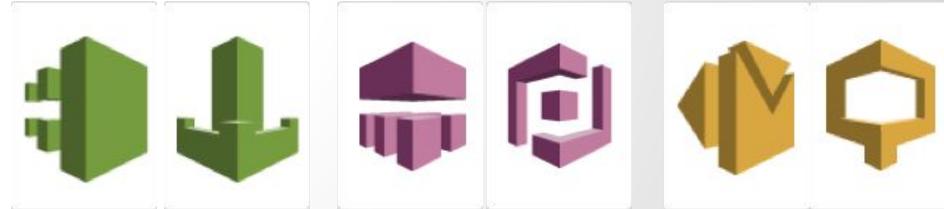
CDPを揃える(パターンは後述)

● 数牌



同じ色のパイを3つ集める。

● リージョン or 三元牌



リージョン or 三元牌を2枚揃える
同じリージョン2枚同じだと+1000点(マルチデータセンター)

ルール(上がり方)

- 手配でCDPを1つ以上、リージョン(三元牌)を1つ、のこりを数牌の合計11枚で作れば上がり

あがり例)



- CDPが2つ (DirectHostingパターン・BIパターン) マルチデータセンター
- 点数 $3000(\text{CDP} \times 2) + 1000(\text{マルチ}) = 4000$ 点

ルール(その他)

- 持ち点は10000点
- 4ゲームするか、誰かの持ち点がなくなった時点で終了
- 親は順に回っていく
- 手配は11枚、ドラなし
- ポン・チーはなし。
- 同じハイが4つそろったらカンと宣言する(自分で4枚揃えたら+2000点、他人からもらったら+1000点)
- JAWS-UG牌はオールマイティ牌として扱う
- 牌は全員オープンで行う

ルール(点数計算)

- CDPが一つの場合は1000点、CDPが2つの場合は3000点
- カンをした場合は+1000点
- 同一リージョンだと+1000点
- ツモあがりをした場合は、トータル点数に+2000点し、トータルを3で割って10の位を切り上げた点数を3人が払う(親子関係なし)
- 親の場合は、トータル点数を1.5倍して計算する
- 上がり時にスタッフがCDPの説明を行う事でCDPへの理解を深める

特殊あがり(ドンジャラ限定) 10000点

● リファレンスWebアーキテクチャ



+E
つろ

● スシロー



特殊あがり(ドンジャラ限定) 10000点

● リファレンスWebアーキテクチャ



● スシロー(役満)



特殊役



Kinesushi

Kinesis暗カンで+3000、明カンで+2000



Docomo

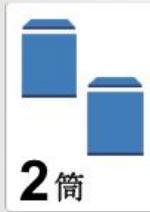
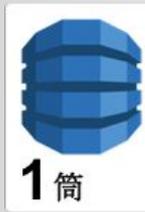
Redshift暗カンで+3000、明カンで+2000



AWS麻雀・ドンジヤラ CDP役一覧 Ver1.1

JAWS-UG

牌の種類



牌の説明 萬子(マンズ)



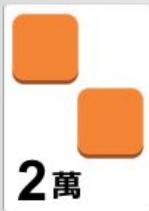
EC2



Elastic
Beanstalk



Auto Scaling



Instances



Elastic Load
Balancing



Amazon Lambda



EC2
ContainerService



AMI



Amazon Kinesis

※青字は変更

牌の説明 筒子(ピンズ)



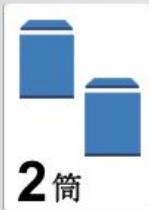
Dynamo DB



bucket



AWS IoT



Amazon EBS



ElastiCache



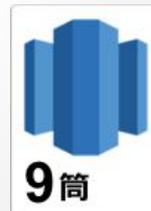
Mobile Hub



snapshot



RDS



Amazon Redshift

※青字は変更

牌の説明 索子(ソーズ)



Direct Connect



EMR



QuickSight



CloudWatch



Machine Learning



Route53



elastic network
instance



S3



Cloud Front

※青字は変更

牌の説明 三元牌(サンゲンハイ)



WAF



Cognito



Amazon
CloudSearch



CloudTrail



Device Farm



Amazon SES



Inspector



MobileAnalytics



Amazon SQS



IAM



SNS



API Gateway

※白に相当

※撥に相当

※中に相当

牌の説明 風牌(ファンパイ)



リージョン
バージニア



JAWS-UG



リージョン
シンガポール



JAWS-UG
エンタープライズ



リージョン
カリフォルニア



JAWS-UG
中央線



リージョン
東京



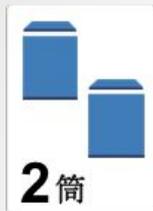
JAWS-UG
女子会

JAWS-UG牌について

麻雀の場合はドラ
ドンジャラの場合はオールマイティ
として扱う

CDP一覽 Ver1.1

CDP



Snapshot

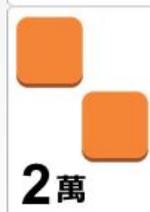
ある瞬間のデータをスナップショット(バックアップ)として作成しS3に保存する事でいつでも復元できるようにする。APIを利用して自動バックアップ作成がよくある使い方。



Stampパターン

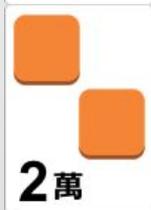
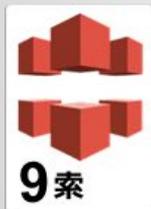
AMIを利用する事で、簡単に同じ環境を用意する事が可能。同じ環境を複数台構築する場合にとっても便利になる。

CDP



Web Storage

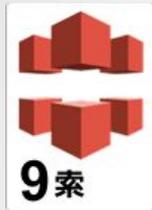
大容量のファイルや静的コンテンツなどをS3から配信する事でEC2への負荷を減らす。動的コンテンツはEC2より配信する。



Cache Distribution

Cloudfrontを利用する事で、世界中にあるオリジンサーバーから遅延なくコンテンツを配信できる。まとめるとサイトが早くなり、ユーザーへのレスポンスが良くなり、EC2へのアクセス負荷も減ります。

CDP



Direct Hosting

R53、Cloudfront、S3を利用する事で、絶対に落ちない静的サイトを構築する事が可能となる。



Job Observer

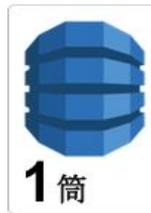
SQSを利用して、CloudWatchで指定した閾値を超えた場合、自動でAutoscalingを行う。
負荷に応じて、EC2の台数を増減(スケールアウト・スケールイン)する。

CDP



Back Net

EC2に対して、2つのENI(仮想ネットワークインタフェース)を用意する事で、公開用ネットワークインタフェースと管理用ネットワークインタフェースを利用する。

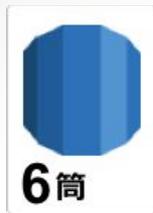


State Sharing

ステート情報(セッション情報、ユーザー情報)などをDyanamoDB、Redisに保持することで、サーバー増減時にステート情報の喪失を防ぐ。



CDP



Inmemory DB Cache

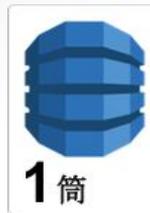
頻繁に読み込まれるデータをRedisにキャッシュすることで、DBから呼び出すことなくRedisからキャッシュデータを取り出す。



Scheduled Autoscaling

アクセスが急増するタイミングがわかってる場合、スケジューリングからスケールアウトする事で、サービスを止めずに運用が可能となる。

CDP



Storage Index

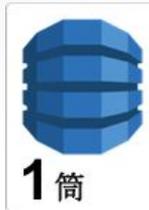
インターネットストレージにデータを格納する際、同時に検索性能の高いKVS(Dynamo DB)へメタ情報を格納し、その情報をインデックスとして利用する。検索時はKVS (Dynamo DB)を用い、得られた結果を基にインターネットストレージへアクセスする。



Multi Load Balancer

ELBを複数台用意する事で、同一サイトでELB毎に挙動を変える事ができる。
PCサイト、スマホサイトをELBを利用してアクセス先を変更できる。

CDP 追加



サムライIoT辻

UG京都が誇るAWSサムライ2016の辻さんがこよなく愛する(デモLTでよく事故る)IoTの王道パターン。Kinesisが受けたセンサーデータをLambdaでよろしく加工してDynamo DBに。あとは煮るなり、焼くなり、可視化するなり。



IoTスターターパックパターン

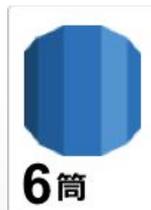
AWSでIoTを始めるならまず最初に使いたい構成。デバイスからMQTTで受けたセンサーデータをAWS IoTがDynamo DBに直接投入。あとはQuickSiteで簡単可視化。でも残念ながらQuickSiteはまだプレビュー。

CDP 追加



マルチリージョンパターン

東と西のリージョンにあるシステムにRoute53でバランシングすると勝手に近い方のリージョンに振り分けてくれるから低レイテンシーをキープできる。



クラウド移行鉄板パターン

オンプレシステムを構成そのまま少しずつお引越し。エンタープライズ王道CDP。しばらくはハイブリッドでもいいじゃない。先には明るい未来が待っている。

CDP 追加



ブルーグリーンデプロイメントパターン

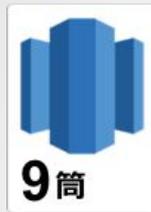
Route53とBeanstalkを利用して安全なリリースを。ダメだったらロールバックすればいいので、どんどん新機能をリリースしちゃいましょう。



ブルーグリーンデプロイメントECSパターン

上記の進化系。Route53とECSを利用して安全なリリースを。リリースがうまくいったら古いコンテナは捨てて、新しいコンテナに。

CDP 追加



BIパターン

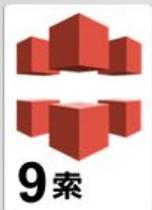
AWSを利用したBI構成の王道パターン。あのデータもこのデータもとにかくKinesisで集めてRedshiftに投入すればQuickSightが真実を見せてくれるはず！



ディープラーニングパターン

AWSを利用したBI構成の進化系。あのデータもこのデータもとにかくRedshiftに投入すれば、Machine Learningが未来を見せてくれるはず！

CDP 追加



セキュアWebサイト三兄弟

この3人が揃えば、DDoSだろうがXSSだろうが、どんな攻撃も怖くない。最強の3兄弟。



モバイル三兄弟

この3人が揃えば、業務アプリだろうがソーシャルゲームアプリだろうがどんなアプリ開発も怖くない。最高の3兄弟。

CDP 追加



監視パターン

AWS麻雀限定CDP。

CloudWatchで各サービスの挙動を監視しSESでアラート通知。CloudTrailを使えばAWS APIの呼び出し履歴も取得可能。S3に保存されたログを使えば稼働状況の分析もできます。



サーバーレスAPIパターン

AWS麻雀限定CDP。

REST API公開の新常識となりつつある構成。Lambdaで稼働中のコードをAPIとして簡単に公開、管理することが可能。

CDP 追加



スケジュールバックアップパターン

Lambdaを利用して、EC2 or RDS のバックアップを作成し snapshotに保存。今までのバックアップの悩みがこれであっさり解決。



とあるアプリリリースパターン

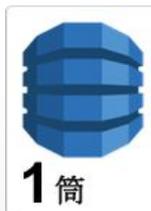
Mobile Hubを利用してモバイルアプリ経由で CloudSearchを叩いて、ワードの検索と登録が可能。

CDP 追加



ガチ分析パターン

Redshiftだけじゃ物足りない！ やっぱHadoopでしょ！ さらに機械学習もやっちゃうでしょ！ というガチ分析系エンジニアのためのCDP。



クラウドネイティブパターン

「EC2は使わない。」そう、これがクラウドネイティブエンジニアの合言葉。でも、EC2を憎んでいるわけではありません。



特殊あがり(麻雀限定)

● リファレンスWebアーキテクチャ(役満)

Route53



CloudFront

ELB

EC2

RDS
(Multi-AZ)

● スシロー(役満)



特殊役

- Kinesushi
- Docomo
- セキュリティカン
- AWSロボ

